

平29年度 麻生総合高等学校不祥事ゼロプログラム 検証結果

平成29年度の不祥事ゼロプログラム実施状況に基づいて、次のとおり検証を行った。

1 目標達成状況について

(1) 法令遵守意識の向上（公務外非行の防止）

ア 目標達成状況 「公務外非行はゼロ」を達成。

イ 検証

- 職員会議では必ず事故・不祥事防止会議を行い、県民から公私にわたり県立高校の教職員として信頼される人物であることが教育の信頼につながることを周知徹底した。
- 管理職による職員面談を行い、日常の身体的・精神的な様子等の把握を行った。施し、職員の意識啓発を図った。
- 職員間のコミュニケーションを大切にし、健康第一で、風通しの良いいきいきとした職場づくりの推進に努めた。「ほう・れん・そう」の徹底により情報の共有を図り、事故不祥事防止に努めた。

(2) わいせつ・セクハラ行為の防止

ア 目標達成状況 「わいせつ・セクハラ行為はゼロ」を達成。

イ 検証

- 不祥事防止会議、研修会、個人点検シートを用いて、スクールセクハラの根絶徹底を図った。
- 学校以外の場でも教職公務員であることを常に意識するよう周知し、特に飲酒等の場所でも県民から信用失墜行為となる言動に十分気をつけるよう注意喚起した。

(3) 体罰・不適切な指導の防止

ア 目標達成状況 「体罰・不適切な指導はゼロ」を達成。

イ 検証

- 体罰がもたらす教育上のマイナス効果を全職員に周知徹底した。
- 7月成績処理、試験問題作成、調査書等の不祥事防止研修会に併せて外部講師による体罰や不適切な言動にかかわる研修を行った。
- 事故防止会議で体罰・不適切指導に関するテーマを取り上げ、その根絶に努めた。また、体罰・不適切指導が見過ごされない職場づくりを推進するとともに生徒対応の際は複数体制で行った。

(4) 成績処置および進路関係書類の作成および取扱いに係る事故防止

ア 目標達成状況 「成績処理、試験問題作成、調査書等の発行に関する事故はゼロ」を達成。

イ 検証

- 試験問題作成、成績処理業務開始前には、担当グループより、業務手順、マニュアルに基づく業務遂行の徹底を図った。
- 7月外部講師を招聘し、成績処理・試験問題作成・調査書作成に関わる研修を行った。
- 成績処理のミスは、生徒の進路活動に大きく影響することを伝え、各種証明書の発行手続き等において、マニュアルに基づく業務遂行、複数の担当者による点検体制を徹底し、事故防止に努めた。

(5) 個人情報等の管理・情報セキュリティ対策（パスワードの設定・誤廃棄防止）

ア 目標達成状況 「個人情報の流失・漏洩はゼロ」を達成。

イ 検 証

- 教務手帳は管理職が管理することとし、校外へ持ち出すことはいかなる場合でも厳禁であることを周知徹底した。
- 個人情報を収集する場合の手続きを職員に周知し、管理職の承認を受けないまま個人情報を収集することがないように周知徹底した。
- やむを得ず個人情報を校外に持ち出す際には、許可手続きを徹底した。また、不祥事防止一斉点検、情報セキュリティ点検、電子情報に関する事故防止会議を実施し、職員の意識啓発を図った。

(6) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

ア 目標達成状況 交通事故1件。

イ 検 証

- 事故不祥事防止に向けて、常に計画的に業務を遂行するよう注意喚起していたが、2月職員の不注意による交通事故が発生した。
- あらためて移動の際には時間的に余裕を持ち、日常の業務は計画的に遂行するよう地周知した。
- すべての職員に対して自動車等の運転においては通いなれた道であっても常に周囲への注意を決して怠ることなく、様々な状況を適切に予測し判断し、あらためて交通法規の遵守を周知徹底した。

(7) 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）

ア 目標達成状況 「各業務にかかる事故はゼロ」を達成。

イ 検 証

- グループ業務の進捗状況を把握し、期限内に事故なく業務が遂行できるよう業務進行計画を作成するよう指導した。
- 各業務は複数体制で遂行するよう指導し、チェック体制・協力体制を確保し、疑問に対する話し合いがしっかりとできる風通しの良い職場づくりを推進した。

(8) 会計事務等の適正執行

ア 目標達成状況 「不適正な会計処理はゼロ」を達成。

イ 検 証

- 「神奈川県財務規則」「私費会計基準」に則った適正な会計処理を行うよう注意喚起を行った
- 「立替払」・「納品書・請求書」受領後の会計処理においては業務の遅れが見られた。すべての会計業務が適切にな処理ができるよう指導する。

(9) 入学者選抜に係る事故防止

ア 目標達成状況 「入試選抜業務にかかる事故はゼロ」を達成した。

イ 検 証

- 過去の入学者選抜における事故の事例と未然防止のための研修会を行った。
- 教育委員会の指導に従い、要項の熟読・人員配置・採点方法等計画的に業務を行った。
- 入学選抜業務の振り返り、事故防止に向けてより良いマニュアル作りを行う。

2 平成30年度にむけて

- 「法令遵守の徹底」「服務規律の徹底」「信用・信頼のある教育の実践」に取り組み、生徒一人ひとりの健全な育成に向けて職員一同全力を尽くす。
- 事故・不祥事防止会議や職員研修会を年間 30 回実施し、教職員としての資質向上を図る。
- 事故・不祥事防止に向けての面談、注意喚起や意識啓発を定期的に行う。
- 職員の交通事故防止に向けて、職員アンケートを 2 回行う。
- 成績処理及び入学者選抜業務の事故は生徒の人生設計に多大な影響を及ぼすので、業務の検証を行い、事故のない業務を計画的に遂行する。
- 事故、不祥事に繋がる課題を早期発見し対応するために、風通しの良い職場づくりを目指し、県民から信頼される教育の実践に向けて全力で取り組む。